

Newsletter for JADR

I. 前田伸子先生を偲んで

Prof Nobuko Maeda lives in my memory

JADR 会長 今里 聡

(大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学教室)

新型コロナウイルスの感染拡大のために日々の研究活動にも様々な影響が生じているものと拝察致しますが、会員の皆様には JADR に対しましてご支援ご協力を賜り、まことにありがとうございます。さて、今回は、巻頭言の誌面をお借りして、2020 年 1 月 28 日に逝去された前田伸子先生（元 JADR 理事，享年 68 歳）の追悼文を書かせていただきます。

前田先生は、1970 年に鶴見女子大学に開設された歯学部（現在の鶴見大学歯学部）の 1 期生で、同級には 2011 年～2014 年に JADR 理事を務められた桃井保子先生や、参議院議員として奉職された石井みどり先生らがいらっしゃいます。鶴見大学を卒業後は東京医科歯科大学大学院に進まれ、歯学博士を取得後、口腔細菌学・口腔感染症の分野で国内外を問わず幅広く活躍されてきました。そして、1999 年から鶴見大学歯学部口腔微生物学講座教授を務めるかたわら、2009 年からは、鶴見大学・鶴見大学短期大学部副学長の重職に就かれました。その論旨明快な話しぶりやウワバミのごとき吞兵衛さをご存知の方には巨星逝くの感があるかも知れませんが、私は家族ぐるみでお付き合いをさせていただいておりましたので、親しい姉を亡くしたようで、その失望感は筆舌に尽くしがたいというのが正直なところです。

私が前田先生と知り合ったのは、英国留学から帰国した 1994 年のことです。私の留学を支援して下さった桃井先生から紹介されたのですが、前田先生が大阪出身ということもあってすぐに打ち解け、10 歳年上の姉御にも拘わらず本当に気さくにお付き合い下さいました。私の妻や子供たちとも仲が良く、前田先生が大阪に来られる時は必ずと言っていい程、私の家族全員と食事に行きましたし（写真 1）、夏には、香港や宮古島へ一緒に旅行をしたりもしました。カラオケにもよく行きました。前田先生の十八番は「大阪で生まれた女」でしたが、竹内まりやの「人生の扉」もお気に入りでした。2 番のサビの歌詞

I say it's fine to be 60, You say it's alright to be 70

And they say still good to be 80, But I'll maybe live over 90
を優しい声で歌われていた先生の姿を思い起こすと寂しさがこみ上げます。前田先生にはもっともっと人生を謳歌していただきたかったと無念でなりません。

今年の日本歯科医学会会長賞を受賞されることになり、逝去されて間もない 2 月に、遺影を胸に愛弟子の大島朋子教授が授賞式に臨まれました。歯科界全体における前田先生の貢献は数多あり、さまざまなところで語られると思いますので、ここでは JADR での活躍に触れさせていただきます。若い頃から毎年のように IADR に参加され（写真 2）、2005 年～2010 年の 6 年間理事として JADR の発展に尽力されたほか、2007 年には第 55 回 JADR 総会・学術大会を主催されました。この大会には、当時の IADR 会長 Prof. Deborah Greenspan や、NIH の Director を務められた Prof. Harold Slavkin といった大御所が来日され、非常に盛況であったことを記憶しております。また、この頃から JADR は、IADR の日本部会として強く国際化を意識するようになり、前田大会長のもとで、シンポジウムが英語のみでのプログラムとして実施され、さまざまな場面で英語を使うようになり始めました。前田先生の国際的センスと繊細な心配りに溢れたこの素晴らしい大会が、以後の JADR の発展に多大なる貢献をされたことは言うまでもありません。

慌ただしいコロナ禍の中、前田先生が逝去されてから 7 か月近く経ちましたが、いまだに「Satoshi」と first name で私を呼ぶ声が聞こえてきそうでなりません。この追悼文を書くにあたって、徒然に「前田伸子、鶴見大学」で検索してみました。現在もさまざまなサイトに前田先生の活躍された記録が踊っており、多くの方に愛された素晴らしい先生であったと尊敬を新たにしています。前田先生、68 年間、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。今後も、空の上から元氣よく JADR への叱咤激励をよろしくお願いします。



写真1 前田伸子先生(右端)、桃井保子先生(中央)らと私の家族でのクリスマスパーティ(2005年、大阪リッツカールトンホテルにて)。



写真2 第81回 IADR 大会(2003年、イエーテボリ)参加時のワンショット。前田先生の右横は大島朋子教授。

II. 2020年度IADR各賞受賞者報告

1. IADR Distinguished Scientist Award (Wilmer Souder Award) 受賞の栄に浴して Deeply honored to be the recipient of IADR Distinguished Scientist Award (Wilmer Souder Award)

今里 聡

大阪大学大学院歯学研究科(歯科理工学教室)

この度、IADR Distinguished Scientist Award (Wilmer Souder Award) 受賞の栄に浴しました。歯科材料研究に従事してきた者としてこのうえなく光栄なことで、望外の喜びです。

IADR Distinguished Scientist Award は、毎年各 scientific group から1名が受賞するものですが、Dental Materials Group については Wilmer Souder Award という別名が付けられています。これは、もともとこの賞が、dental materials research 部門での実績を懸賞することを目的に、第17代 IADR 会長(1940～1941年)で“Father of Dental Materials Research”と呼ばれた Prof. Wilmer Souder の名を冠して1955年に制定されたもので、現在17個ある IADR Distinguished Scientist Award の中で最も古くに始まったからです。日本人では、これまでに、中林宣男先生(現東京医科歯科大学名誉教授)、Okabe Toru 先生、田上順次先生(東京医科歯科大学教授)の3名が受賞されており、筆者が4人目となりますが、初期の受賞者リストには、Skinner (1956年)、Paffenbarger (1958年)、Phillips (1959年)、Peyton (1961年)、Hollenback (1963年)、Ryge (1966年)といった dental materials 研究の錚々たるレジェンドが名を連ねており、本賞を授かったことは身に余る光栄と感じております。

Newsletter 2019-1 の JADR 会長就任のご挨拶でも書かせていただきましたが、私は、1992年の Glasgow 大会で初めて

IADR に参加してその魅力に引き込まれ、Dental Materials Group の reception や business meeting に積極的に参加しているうちに友人が増え、中畠 裕先生(現明海大学名誉教授)のご推薦もあって、Dental Materials Group の Secretary, President-elect, そして President を務めさせていただきました。その頃の Dental Materials Group を牽引していたのは、Prof. Sally Marshall(1999～2000年 IADR 会長)や Prof. Stephen Bayne(2006～2007年 IADR 会長)といった大御所で、science は勿論のこと、国際的な collaboration も含めて彼らから本当に多くのことを学ばせていただきました。

さて、今年の3月の Washington DC での100周年記念大会が COVID-19 のためにキャンセルとなり、Opening ceremony の際の賞の授与式も中止となったことは非常に残念ではありました。ただ、IADR 本部より、プラークを送付するので、適任と思われる人物から授与してもらっている様子を撮影して送るよう指示がありました。そういった写真を集めて、Award ceremony の動画を配信するとのことでした。そこで、日本人で初めて IADR 会長(1998～1999年)を務められた作田 守先生(大阪大学名誉教授)をお願いしたところ、快くお引き受け下さり、作田先生からプラークを贈呈していただくことができました(写真)。ちなみに、作田先生と私が胸にかけているのは、作田先生が発案してお造りになった JADR のメダルで、歴代の JADR 会長の間で引き継がれているものです。通常とは異なる受賞のスタイルでしたが、作田先生からプラークを手渡していただいた際には感無量でした。

これまで私は、生体機能性を有する次世代型歯科材料の開発を始め、さまざまなテーマの材料研究に取り組んで参りましたが、Wilmer Souder Award を受賞させていただいたのは、恩師である土谷裕彦先生(現大阪大学名誉教授)や恵比須繁

之先生（現大阪大学名誉教授）の薫陶を受け、大阪大学歯理工学教室および歯科保存学教室のメンバー、さらには国内外の数多くの共同研究者の方々と一緒に研究を進めることができたおかげです。また、IADR 会長として日本人のプレゼンスを示された作田守先生、黒田敬之先生（現東京医科歯科大学名誉教授）、安孫子宜光先生（現日本大学松戸歯学部名誉教授）らの存在があったことも大きな要因であり、これらすべての皆様に心より感謝申し上げます。そして、最後に、私の日々の活動を支えてくれた家族にも大いなる謝辞を送りたいと思います。本当にありがとうございました。



作田守先生（大阪大学名誉教授、右）よりプラーク贈呈

2. 2020 IADR Distinguished Service Award を受賞して

大浦 清

（太成学院大学教授・大阪歯科大学名誉教授）

まず、初めに今回の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に感染されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。また一刻も早い収束を祈念致しております。寒くなる時期（風邪、インフルエンザの流行）までには少しは下火になってほしいと願っております。

今年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、学会など人との交流、ふれあいどころか、感染拡大防止の為、ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）を保つこと（三密：密閉、密集、密接の回避）が提唱されています。

私儀、2年前に大阪歯科大学を定年退職後、現在は太成学院大学看護学部等で口腔保健と健康等の講義を行っていますが、今年は学生の三密を避けるため、ほとんどオンライン授業になっています。学校教育にとっては今後、アクティブ・ラーニングをさらに進めていくには善い機会かもしれません。

さて、今回 JADR の事務局から受賞について報告するよう

にとのことですので、ご報告いたします。

9 年前の 2011 年 3 月には San Diego で開催された第 89 回 IADR 総会において 2011 IADR Distinguished Scientist Award（Pharmacology/Therapeutics/Toxicology Research Award）を受賞し、今回は Distinguished Service Award を受賞という、2 度も素晴らしい賞を受賞させていただき非常に名誉なことであります。しかも、今回は IADR の 100 周年記念ということもあり、さらに Washington DC での開催ということで 2 年間の NIH 留学時（私は 1983 年から 2 年間、アメリカの国立歯学研究（NIDCR, NIH）でエイズの研究や免疫薬理学の研究にたずさわりました）の懐かしい同僚にも会えると楽しみにしておりましたが、残念ながら学会も中止になってしまいました。

IADR 本部から受賞のプラーク（楯）が 4 月に送附されてまいりました。IADR の Web で受賞の写真を流すということで、IADR 会長に代わり太成学院大学の足立祐亮理事長・学長から授与していただいた写真を送りました。非常に良い記念になりました。

私と IADR との関係は大阪歯科大学大学院生の時に最初の学会発表が IADR の日本部会（現 JADR）でした。1978 年に IADR の会員になり以後 42 年間にわたり、世界各地で口演およびポスター発表をさせていただきました。

1997 年からは JADR の理事を黒田敬之会長の元、2 年間、1999 年から岡田宏会長、奥田克爾会長の元、2002 年まで 2 期 4 年間副会長を務めさせていただきました。その間、1999 年には第 47 回 JADR 総会（神戸市）の大会長も致しました。また、2002 年には JADR の 50 周年記念式典の準備委員長・司会もさせていただきました。2003 年から 2004 年の 2 年間は亀山洋一郎先生とともに監事を務めました。この JADR における 8 年間はいろんなジャンルの先生方との人脈も作ることができ幅広く勉強させていただきました。

さらに、IADR では縁あって、1996 年より Ethics in Dental Research Committee, Joint Exhibit Committee, Nominating Committee（1 年間は委員長）、Regional Development Committee, Distinguished Scientist Award Committee, Annual Session Committee など、7 つの委員会の委員を通算 21 年間務めることになりました。現在も 2022 年まで Membership and Recruitment Committee の委員を務めております。

これらの貢献により、2020 年 Distinguished Service Award（功労賞）を受賞しました。この賞は、IADR のメンバーで長く IADR の発展に貢献した者で、IADR の Officer（会長、副会長等）にはならなかった者に世界で毎年 1 名授与され、私で 18 人目です。

国際的な賞の受賞は、研究者として非常に光栄であるとともに名誉なことでもあります。JADR の若い研究者の皆さんには、積極的に英語で論文を発表し、自信をもって、もっと国際舞台で大いに自分をアピールしていただくとともに、さらに学会の運営等にももっと参加して頂きたいと願っています。何事も為せば成る！です。皆さんの健闘を祈っています。



IADR 会長に代わり足立祐亮理事長・学長より
受賞プラークを受ける



受賞プラーク

III. Hatton Award Final Competition を終えて

1. Hatton Award 2020 に入賞して

枘本 梨沙

(大阪大学大学院歯学研究科歯周病分子病態学)

この度, Hatton Award Competition 2020 において, 演題「Paraoxonase-1, an Aggressive-Periodontitis Related Gene in a Japanese Population」を発表し, Senior Basic Category において 2nd place を受賞いたしました。大学院進学当初より, IADR Hatton Award を目標にして研究に励んで参りましたので, 栄えある賞をいただくことができ, とても嬉しく思っています。今回の発表では, 日本人侵襲性歯周炎の疾患関連遺伝子 Paraoxonase-1 の機能について, 同遺伝子の一塩基多型が歯周組織の恒常性破壊を誘導する事を発表させていただきました。国内での選考会におい

て貴重な助言や温かいご声援をくださった今里聡先生, 本田雅規先生をはじめとする, 選考委員の先生方に厚くお礼申し上げます。また, 直接ご指導いただいた大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子免疫制御学講座の村上伸也教授, 藤原千春助教, 同教室の皆様にも心より感謝いたします。

今回の Hatton Award 最終選考は「バーチャル大会」と称して, 10 分間のビデオ提出により行われました。近頃はビデオ会議やオンライン講義などが普及してきましたが, 本大会が行われた 3 月末の時点でこのような非対面の形式は初めてのことでした。まず「ビデオカメラをどこに設置するのか」「スクリーンが白飛びする」などの基本的な問題から始まり, 直接お顔を見ることができない審査員の先生方をどのように意識して話せばよいのかなど, いつもとは違う緊張感を体験しました。また, 録画したビデオを観ることで, つい言い間違いをしそうになった時のしかめっ面や, 次に言う内容を思い出す時にふと宙を仰ぐ仕草など, 自信がなさそうな印象を与える自分の癖に気付かされました。さらに「何度でも撮り直しが出来ること」も, ビデオ審査の大変さの 1 つであると痛感しました。撮り直しのたびに引きつっていく笑顔, 枯れていく声と格闘したことも, 今となっては良い思い出です。

結果発表は, 驚いたことに YouTube の動画にて行われました。早朝に URL が添付されたメールが届き, (大変失礼ながら) 布団に包まりながら受賞者発表を観始めました。そして自分の名前がコールされた時, あまりの嬉しさに大声で叫んでしまい, 両親が「どうしたの!？」と部屋に駆け込んで来る始末でした。奇しくも, その日は私の誕生日でしたので, 神様から最高のプレゼントをいただいたような気がしました。携わってくださった皆様に, 重ね重ねお礼を申し上げます。

最後に, 未来の Hatton Award に挑戦される先生方に心からのエールを送りつつ, 私の受賞報告とさせていただきます。この度は貴重な機会をいただき, 本当にありがとうございます。

2. Hatton Award2020 最終選考を終えて

山崎 恭子

(新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野)

この度 2020 年度 IADR 学術大会において Hatton Award2020 最終選考を終えましたのでここにご報告いたします。歴史ある大会へ参加させていただき, 選考会等でお世話になりました JADR の先生方, 事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

2019 年 8 月, 丁度一年前に JADR HATTON AWARD2020 二次選考会に参加した時には世界がこんな風になってしまうとは思ってもみませんでした。2020 年度 IADR 学術大会は IADR100 周年の記念大会であり, 私自身大学院 3 年を終えるタイミングということで大学院入学時から HATTON AWARD

へ挑戦することを一つの目標として研究に励んで参りました。初めて IADR の学術大会に参加した 2019 年 6 月のバンクーバー大会では JADR 選出候補者として参加された先生方のポスターを拝見し、自分もこのような立派な発表をしたいと目標を新たにしましたところ。それがまさかの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大による Web 開催。多くの参加予定の先生方と同様にかかる気持ちと、まさか平成に生まれた自分が感染症による全世界的な混乱に巻き込まれるとはという驚きがありました。

最終選考の審査は発表の様子を動画で送り審査をしてもらうというものでした。フィードバックがないため自身の拙い発表を評価者に本当に理解してもらえたのかわからず、少なからず心残りがあります。このような状況下で審査を行っていただけただけでもありがたいのですが、やはり研究というのは発表をしてコメントをもらい議論をすることで深まるものだ改めて感じました。現在多くの学会が Web 開催をせざるを得ない状況ですが、感染症の拡大が早期に収束し、世界中の研究者と語り合う環境を取り戻せることを願うばかりです。

通常通りの最終選考ができず残念な思いはありますが、留学経験のない私にとっては英語でのメールのやり取り一つとっても初めてのことであり、貴重な経験をさせていただきました。限られた時間とスライドで如何に自分達の研究のおもしろさを伝えるか、試行錯誤した時間は必ず今後の研究人生に生きてくると確信しています。また最終選考の前には JADR 事務局の方から過去の最終選考に出場された先輩方からの様々な経験談やアドバイスを送っていただき、今後の国際学会での発表に活かしていけたらと思っております。

最後になりましたが今大会に臨むにあたり研究のご指導をいただきました山崎和久教授、並びにご協力いただきました共同研究者の先生方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

3. Report on Hatton Award Participation 2020

Rehab Alshargabi

(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野)

It was a great honor for me to participate in Unilever Hatton Award/ Senior-Basic Science Category, of the International Association for Dental Research (IADR), 2020, after being nominated by the Japanese Association for Dental Research (JADR).

For me, being able to participate in such a worldwide famous competition was a great achievement and an important milestone in my future career path as a researcher.

Unlike previous years, this year, competition was held online after the cancellation of ADR/AADR/CADR General Session 2020 because of the global spread of COVID-19.

Despite the sudden decision of cancellation, IADR organizing committee decided quickly to still hold the competition virtually by recording 10 minutes video of our researches. Of course I was happy for still being able to participate in the competition, but at the same time, I felt really sad because getting visa to USA was almost impossible as a Yemen citizen. I even got rejected at the first time I tried, but great thanks to the efforts by Yemen Embassy in USA and Kyushu University I was finally able to get the visa just in time for the competition.

Overall participating in both IADR and JADR Unilever Hatton Award competition was a dream for me and I hope it will be the beginning of new achievements in the future.

Finally, I am most grateful to JADR committee members for giving me this opportunity to have such an overwhelming experience that I will keep in my memories for eternity.

Thank you so much and all the best for future endeavors.

IV. IADR Council Meeting 報告

JADR 会長 今里 聡

(大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学教室)

2020 年 3 月のワシントン DC 大会が中止となったため、会期中の火曜日に開かれる予定であった Council meeting は、3 月 17 日にオンラインにて開催されました。日本時間で夜中 2 時から 4 時の会議となり、JADR からは、私と中村副会長、森山財務担当理事の 3 名が出席しました。初めての WEB での Council meeting でしたが、議案の諾否を投票するシステム等もスムーズで、問題なく終了しました。以下、主な議事の要点をご報告致します。

1. IADR Vice President 候補者として以下の 3 名が承認された。
 - Alvaro Della Bona, Brazilian Division, Dental Materials Group
 - Om Prakash Kharbanda, Indian Division, Orthodontics Research Group
 - Ophir Klein, AADR San Francisco Section, Craniofacial Biology Group
2. 2020-2021 年の各種 Committee の委員が承認された。
3. Dental Anesthesiology Research Group の名称を Dental Anesthesiology and Special Care Research Group に変更することが承認され

た。

4. IADR と AADR の共同での Policy and Position Statements on Sugar-sweetened Beverages が承認された。
5. IADR General Session が、2024 年は New Orleans で、2025 年は Barcelona で開催されることが決定した。
6. 新型コロナウイルス感染症対応としての Membership refunds と meetings に関する Bylaw の改変が承認された。
7. ワシントン DC 大会が中止になったことへの今後の対応についての報告があり、意見交換がなされた。

以上

V. 第 68 回国際歯科学研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 石原 和幸
(東京歯科大学微生物学講座)

Covid-19 の感染拡大の状況下ではありますが、本年度の国際歯科学研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会を 11 月 7 日、8 日に開催する事となりました。日本における歯学研究を牽引する本学会を開催させて戴けることを光栄に思うと同時に、この困難な状況下で、本会の開催に当たって御支援を戴いている今里聡会長はじめ関係の皆様は心より感謝申し上げます。JADR は IADR との collaboration を介して、歯学における基礎・臨床研究の推進と世界展開に非常に重要な役割を果たしています。今回は、これらの研究の発展と、新たな translational research を生み出すことをめざし、Beyond Borders: From Dental Research to Future Oral Health をテーマとしました。口腔から健康に寄与できるような先進的な歯学研究の発信を期待しています。今回の学会では、IADR 会長 Dr. Pamela, KADR 会長 Dr. Joo-Cheol Park (Korean Division of the IADR による今後の歯科医学を俯瞰する特別講演、基調講演として University of Louisville の Dr. Richard J. Lamont に口腔細菌叢の dysbiosis に関わる講演を御願ひしています。シンポジウムとしては、“At the front-line: Etiology of periodontitis”, “Pathophysiological approach from oral function to systemic diseases”, “Future is now! Stem cell revolution in hard and soft tissue engineering”を企画し、歯周炎、口腔に関わる生理機能、組織再生についての最先端の切り口による研究を聞けると期待しています。Covid-19 により、web 上での開催という形になっていますが、physical distance を超えたディスカッションと情報交換によって、すべての参加者が新たな知識を獲得し、今後の研究を推進する仮想空間として戴けると幸いです。

会 期：2020 年 11 月 7 日 (土) ～ 8 日 (日)
会 場：オンライン開催

大 会 長：石原 和幸 (東京歯科大学微生物学講座)

準備委員長：澁川 義幸 (東京歯科大学生理学講座)

プログラム：

基調講演 (オンデマンド配信 (動画))

Prof. Richard J. Lamont

(Oral Immunology and Infectious Diseases, Department Oral Immunology & Infectious Diseases, University of Louisville, School of Dentistry)

特別講演 (オンデマンド配信 (動画))

Prof. Joo-Cheol Park

(President Elect, KADR, Laboratory for the Study of Regenerative Dental Medicine, Department Oral Histology-Developmental Biology, School of Dentistry, Seoul National University)

IADR 会長より祝辞 (オンデマンド配信 (動画))

Prof. Pamela Den Besten

(President Elect, IADR, Center for Children's Oral Health Research University of California, San Francisco)

シンポジウム I

(講演：オンデマンド配信 (動画)，質疑応答：ライブ配信)

「At the front-line: Etiology of periodontitis」

- 1) 竹下 徹 (九州大学大学院歯学研究院 口腔保健推進学講座口腔予防医学分野)
- 2) 中山 真彰 (岡山大学医歯薬学総合研究科口腔微生物学分野)
- 3) 塚崎 雅之 (東京大学大学院医学系研究科免疫学)
- 4) 天野 敦雄 (大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座予防歯科学)

シンポジウム II

(講演：オンデマンド配信 (動画)，質疑応答：ライブ配信)

「Future is now! Stem cell revolution in hard and soft tissue engineering」

- 1) 大庭 伸介 (長崎大学生命医科学域細胞生物学分野)
- 2) 宿南 知佐 (広島大学大学院医系科学研究科生体分子機能学)
- 3) 井関 祥子 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子発生学)
- 4) 中村 貴 (東京歯科大学生化学講座)
- 5) 山下 晃弘 (iPS 細胞研究所臨床応用研究部門)

シンポジウム III

(講演：オンデマンド配信 (動画)，質疑応答：ライブ配信)

「Pathophysiological approach from oral function to systemic diseases」

- 1) 重村 憲徳 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能解析学分野／九州大学五感応用デバイス研究開発センター)
- 2) 加藤 隆史 (大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座口腔生理学教室)
- 3) 篠田 雅路 (日本大学歯学部生理学講座)

4) 溝口 利英（東京歯科大学口腔科学研究センター）

若手シンポジウム

（講演；オンデマンド配信（動画），質疑応答；ライブ配信）

「Neuroscience」

1) 加納 史也（徳島大学大学院医歯薬学研究部組織再生制御学）

2) 片桐 綾乃（大阪大学大学院歯学研究科口腔生理学教室）

3) 宮本 順（東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面矯正
学分野）

ポスターセッション（オンデマンド配信；PDF）

参加登録方法について：

第 68 回 JADR 総会・学術大会サイト（↓）よりお申込みく
ださい。

<http://jadr68.umin.jp/jpn/registration.html>

多数の先生方のご参加をお待ち申し上げます。



VI. 第 99 回 IADR 総会・学術大会のご案内 (2021 年度 IADR, Boston, Mass, U.S.A.)

2021 年度の IADR は、7 月に Boston にて開催予定です。奮
ってのご参加をお願いいたします。

会 期：2021 年 7 月 21 日（水）～ 24 日（土）

会 場：HynesConventionCenter

900 Boylston Street Boston,

Massachusetts 02115 U.S.A.

演題登録締切：2021 年 03 月 01 日（月）

CONTENTS

I. 巻頭言（故前田伸子先生追悼文） 今里 聡	1	I. Prof Nobuko Maeda lives in my memory Dr. Satoshi Imazato: JADR President	1
II. 2020 年度 IADR 各賞受賞者報告		II. Reports from the 2020 IADR Award Winners	
1. IADR Distinguished Scientist Award (Wilmer Souder Award) を受賞して 今里 聡	2	1. Deeply honored to be the recipient of IADR Distinguished Scientist Award (Wilmer Souder Award) Dr. Satoshi Imazato: Osaka Univ.	2
2. IADR Distinguished Service Award を受賞して 大浦 清	3	2. 2020 IADR Distinguished Service Award Dr. Kiyoshi Ohura: Osaka Dental College (Emeritus Prof.)	3
III. Hatton Award Final Competition を終えて		III. 2020 IADR Unilever Hatton Competition & Awards	
1. 栢本 梨沙	4	1. Dr. Risa Masumoto: Osaka Univ.	4
2. 山崎 恭子	4	2. Dr. Kyoko Yamazaki: Niigata Univ.	4
3. Rehab Alshargabi	5	3. Dr. Rehab Alshargabi: Kyushu Univ.	5
IV. IADR Council Meeting 報告 今里 聡	5	IV. Report of the IADR 2020 Council Meeting Dr. Satoshi Imazato: JADR President	5
V. 第 68 回 JADR 総会・学術大会開催のご案内 石原 和幸	6	V. Announcement of the 68th JADR General Session Dr. Kazuyuki Ishihara: Tokyo Dental College	6
VI. 第 99 回 IADR 総会・学術大会のご案内 (2021 年度 IADR, Boston, Mass, USA)	7	VI. Call for Reports of the 99th IADR General Session in Boston, Mass, U.S.A.)	7

●編集後記●

今回の Newsletter は、今年の 1 月にご逝去された前田伸子先生の追悼文に始まり、今里 聡会長の IADR Distinguished Scientist Award 受賞ならびに大浦 清先生の IADR Distinguished Service Award 受賞にあたってのお 2 人からのお言葉など、慶弔が重なったのは残念ながらではありますが、大変内容のあるものとなりました。寄稿いただいた全ての先生方に厚く御礼を申し上げます。

IADR の 100 周年を記念するワシントン DC 大会を中止にまで追い込んだコロナ禍ですが、未だに収束にはほど遠い状況です。今年の石原和幸大会長による JADR 総会・学術大会も通常どりの開催は困難であるため、Web 開催への変更を余儀なくされました。ただし、石原大会長のご尽力により、大変興味のある企画になっていると思います。従来どおり、いや従来以上に多くの会員に参加していただきますようお願いを申し上げます。

コロナ禍に対応する新たな生活様式を語る際には、「with コロナ」、「post コロナ」、「after コロナ」などと呼ばれますが、個人的には「beyond コロナ」という表現が好きです。完全に元に戻ることは難しいとは思いますが、人類の英知を結集してコロナ禍を乗り越え、安心・安全な人間らしい生活を取り戻せることを願っています。また、学会などの学術集会に関しては、Web 開催や集合型とのハイブリッドといった新たな開催方法が増えてきていますが、JADR としても会員の学術的な活動を減速することなく、むしろ促進できるよう、「beyond コロナ」の新しい学術大会の開催方法を模索していきたいと思っています。

発行：国際歯科研究学会日本部会（JADR） <http://jadr.umin.jp>

連絡先：

国際歯科研究学会日本部会（JADR）

副会長 中村 誠司（九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野）

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

TEL：075-468-8772 FAX：075-468-8773 E-mail：jadr@ac-square.co.jp

2020 年 9 月 30 日 発行